

地域公共交通について語る会の開催結果

(1) 実施概要

実施日時・場所

「地域公共交通について語る会」は、7回に分けて実施した。中学校区を基本として、各公民館を会場とした。ただし、たくさんの人に参加してもらうため、開催中学校区の住民でなくても参加できるようにした。

図表 実施日時・場所

開催日	時間	会場	主な対象校区	参加者人数
10/6(日)	9:30～11:30	大塚公民館	大塚	9人
10/6(日)	13:30～15:30	三谷公民館	三谷	12人
10/12(土)	9:30～11:30	塩津公民館	塩津	6人
10/12(土)	13:30～15:30	市役所 北棟集会室	蒲郡	18人
10/12(土)	16:00～18:00	市役所 北棟集会室	中部	8人
10/19(土)	9:30～11:30	形原公民館	形原	20人
10/19(土)	13:30～15:30	西浦公民館	西浦	7人

当日の進め方・議題

グループ討議では、「ご自身や家族のバス利用状況」「バスに対する課題」「税投入規模に対する問いかけ」「改善案」の4つのテーマについて、意見交換を行った。

なお、メンバーの意識共有を図るために、グループ討議の前に、バスの利用状況や予算規模等といった前提条件を説明した。

○趣旨説明・問題提起

- ・バス利用の状況、他都市と比較したバス事業の予算規模、蒲郡市の公共交通力バース率、将来の人口予測、「バスが必要な人」の問いかけ、等

○グループ討議

【テーマ】最近の公共交通の利用状況について

- ・自己紹介を兼ねて、ご自身やご家族の利用状況を

【テーマ】現状路線の課題について

- ・現状の電車・バスの不便な点
- ・地域の人が電車やバスに乗らない理由
- ・電車やバスがなくて困っている人・地域

【テーマ】税投入の拡大について

- ・上記の課題に対して、税金投入の拡大が必要か
- ・税金投入拡大をしないのであれば、どのように費用を捻出すべきか(運賃?)

他路線の縮小？ 地域負担金？)

【テーマ】改善策について

- ・JR、名鉄蒲郡線に対する意見
- ・路線バスの改善案(ダイヤ、停留所位置、乗継利便性など)
- ・交通空白地域における乗合タクシーの可能性
- ・その他の改善策

【全体まとめ】公共交通の将来像(キャッチフレーズ)

○グループ討議結果の発表

実施の様子

各会場における議論・発表の様子は以下のとおりである。

10/6(日) 大塚



10/6(日) 三谷



10/12(土) 塩津



10/12(土) 蒲郡



10/12(土) 中部



10/19(土) 形原



10/19(土) 西浦



使用した資料と出された意見(蒲郡地域を例に)



(2)実施結果における主な意見

大塚

現状路線 の課題	○バスに対する意見 ・バス料金高い。バスルートを考えてほしい。バス本数を増やしてほしい。 ・待ち時間が長い。利用希望者に対する利用時間のアンケート。 ・若い人は車の利用になってしまうのでは。 ・高齢者、若者の区別の必要。 ・バスに乗る「ターゲット」を絞る。 ・豊川方面にバスがない。 ・日中大塚町バスの必要なし。土日はラグーナの客のみ。 ・バスは利用料が高く時間がかかる。 ・バスの小型化。小回りのきく小型中型バスになるとよい。 ・御津豊川の高校生の通学。 ・通院買い物に不便。 ○鉄道に関する意見 ・ＪＲの始発時間が遅い。 ・名鉄電車は通学に特化する。(昼間は間引き) ・名鉄電車をバスレーンに。 ○その他 ・生協などの配達してくれるお店。出張サービス。 ・蒲郡市はボランティア不足。市民の人材育成。		
課題解決 に向けた 財源確保	・自助・公助(自分で歩く 助け合う 市の助け) ・路線バスの利用が少ない区間を廃止して捻出 ・拡大は厳しい		
改善案	誰のために？	どんな目的地に？	どんな時間帯に？
	○高齢者 ○免許を持たない人 ○病人	○通院 ・市民病院、三谷の診療所、豊橋 ○買い物 ・ドミー、アピタ	・通院は、８時に到着し、 １１時台には帰りたい
地域公共交通の将来像	○すみよい、くらしやすく、ゆとりをもって、あるきやすいまち。 ○鉄道を核とした公共交通体系に。 ○利用対象を絞り必要な人に適したバスを効率的に運行。		

三谷

現状路線 の課題	○バスに対する意見 ・大塚駅 ラグーナ間は生活のためにはなっていない。 ・市民病院まで大回り。 ・小さなバスで小回りを。本通ではなく裏通りでも走行するコースも考えて下さい。循環バスをうまく使えないか。 ・通院ができないので人に頼んでいる。 ・バス停が遠い。 ・バスの便数の問題以前にマイカーの便利さがある。多くの人は無料でも乗る人は増えないと思う。ただ生活弱者を考えた場合は別である。コミュニティバスを導入するには税金がかかりすぎるのでは？ ・バスを使わなくて良い所にバス停がある。 ・水産高校、海陽ヨットハーバーのバス停は必要なのか？ ○鉄道に関する意見 ・名鉄西尾・蒲郡線は各駅前に新住宅団地でもできなければ利用者は増えない。イベントやキャンペーンでは無理。 ・鉄道が遅い。 ○タクシー補助に関する意見 ・タクシー券は自己負担が多いのであまり利用できない。 ・タクシーに贅沢な感じがある。 ・タクシーチケットの行き先（市民病院・役所）の負担率をかえる。 ○その他 ・家族に送ってもらうのがつらい・・・家族感情 ・免許返納者には優遇措置を。		
課題解決 に向けた 財源確保	・利用が少ない路線を見直して利用される路線に。 ・バスに乗る人が金を負担する仕組みを。 ・予算はあまりかけない。		
改善案	誰のために？ ・高齢者	どんな目的地に？ ・市民病院 ・サンヨネ、ドミー	どんな時間帯に？ ・通院は早朝
地域公共 交通の将来像	○必要な人に必要なサービスを行う町に。 ○みんなで支えあう町に。（ボランティア等エネルギーがある人材を使うべき） ○話し合いをもって。（ケアマネさん等いろんな人の意見をきき情報をまとめる） ○必要な時に必要な場所に行けるように。 ○生活弱者にやさしく、効率的な運行で、みんなが負担できる運営費を維持。 ○必要な人に必要なサービスを提供。（病院、市役所）		

塩津

現 状 路 線 の 課 題	○ バスに対する意見 ・ バスを使用した事はないが小さいバスを回数多く走らせた方がよい。また途中拾いを考えて下さい。 ・ 空白エリアの公共交通のサポートシステムの必要性がある。 ・ 西浦 市民病院の定期バス・乗降客があまりにも少ないので中小型に変更出来ないのか。 ・ 奥林、柏原は車に乗れる人が多く、大家族が多い。 ・ バス路線によって生活の在り方が変わる。 ・ 名鉄バスを廃止して小型の巡回バスにしてもよいのではないか。 ・ 鉄道を中心としたバス体系に。 ・ 塩津、形原等はデマンドの方が使いやすい。 ・ 住宅地へのバスのニーズが強い。 ・ 直通型をやめて巡回型に直す。 ○ 鉄道に関する意見 ・ JRは15分待ち。名鉄は30分待ち。名鉄の本数が増えれば使いやすい。 ・ 名鉄がなくなると、蒲郡ではなく三ヶ根に送ってしまう。それでは蒲郡駅の利用減になる。 ○ タクシー補助に関する意見 ・ 高齢者タクシーは負担が大き。坂本、清田の人は3割引を使っても高い。 ○ その他 ・ お嫁さんに頼みにくいので娘に仕事を休んでもらって病院に来る。 ・ 人口が減少している。外から人が来る政策を。 ・ 3500万他に使い方があのでは？ ・ バス利用者で会議を。住民参加の「交通問題」を語る会議を開く。 ・ 風邪なら「市民病院」ではなく近所の病院へ。		
課 題 解 決 に 向 け た 財 源 確 保	・ 増税は困る。生活のすべてに公共サポートを要求されていくと行政財政が破たんするのでは。 ・ 企業負担（スーパー、診療所） ・ 名鉄とバス重複。名鉄、バスの支払う負担金を改めて考えるべき。		
改 善 案	誰のために？	どんな目的地に？	どんな時間帯に？
	・ 高齢者、障害者 ・ 車のない人	・ 駅、市役所、競艇場、スーパー、病院・診療所	
地 域 公 共 交 通 の 将 来 像	○ 大型でなくても。無駄のないように。かゆいところに手が届く。 ○ 鉄道駅を中心とした地域巡回。 ○ 企業公共利用者も含めた負担。 ○ 地域の実情に見合った公共交通体系。		

蒲郡

現状路線 の課題	○バスに対する意見 ・年齢をわけて値段を変更。バス 100 円に。 ・バス停を細かく。 ・大型→小型バスに。小さなバスで狭い道を通れるように。 ・観光客が利用するバスが無い。 ・市民病院からの帰りの便がない。 ・路線が分かりにくい。番号で分かりやすく。 ・市役所にバス停がない。 ・バスは少ないのでは。ＪＲは使用しやすい、不便を感じない。 ・バス最終時刻を遅くしてほしい。 ・バス停でバスの運行状況がわかるといい。 ・元気で外出出来るように。巡回バス。 ○鉄道に関する意見 ・三河塩津駅がバリアフリーになっていない。 ・名鉄電車を維持すべきか議論すべき。 ○タクシー補助に関する意見 ・タクシー高い。7 割→5 割に。重みづけで変更。 ○その他 ・家族の期待は無理。 ・老人クラブの意見を聞いてほしい。		
課題解決 に向けた 財源確保	・財源は現状並みでバス、鉄道をより利用されるように見直し。 ・地域のスーパー、喫茶店などと提携。協賛金つもの。(広告バス) ・今の補てん額でよい。今のものを見直してほしい。		
改善案	誰のために？	どんな目的地に？	どんな時間帯に？
	・豊岡の高齢者 ・小学生 ・車に乗れない人 ・観光客	・病院、買い物 ・街中の主な施設を廻る巡回バス	・病院（診察時間） 買い物（夕方） ・病院帰宅は 14 時 ・8 時台多い。夕方はばらばら
地域公共 交通の将来像	○だれでも気軽にお出かけできる町。 ○大きなバスでなく主要施設の巡回バス。ＪＲを中心としたバス路線。 ○行きたい先とのタイアップ。(協賛金、広告)→財源の捻出 ○必要性の高い所へ集中投資。 ○高齢化マイナスイメージをプラスに→バスに乗って高齢者も元気！→アクティブシニア		

中部

現状路線 の課題	○バスに対する意見 ・巡回バスが走っても果たして利用者があるか心配。 ・坂本町の高齢者の生活支援。 ・同居していても昼間は独居。買い物の為に。 ・駅から 300m 以内であっても必要な人はいます。駅の近くも不便。 ・大型バスは空。大型、小型バスをうまく利用してほしい。 ・西浦温泉から市民病院までは長すぎて、高齢者のトイレに間に合わない。 ・市役所のバス停がない。 ・ダイヤを増やす。 ・細かくまわってほしい。 ・駅までのアクセスをよくする。 ・「循環」という割に一方向しかなく、病院に行くのに帰りのルートがない。 ○鉄道に関する意見 ・名鉄をバスに変更。 ・電車（西原、形原）→蒲郡→市民病院の料金優遇。 ・JRの利便性は高い。 ○タクシー補助に関する意見 ・タクシー割引券は周囲に対する遠慮がある。 ○その他 ・バスを寄付。運転手はボランティアで。		
課題解決 に向けた 財源確保	・空のバスを走らせるより効果的な公共交通サービスへの投資を。 ・バス路線を減らしてでも→他への捻出。 ・必要なら大きな政府でも		
改善案	誰のために？ ・駅との距離ではなく必要性の高い人 ・高齢者、足腰の弱い方 ・独居の老人に	どんな目的地に？ ・スポーツボックス ・市民病院 ・スーパー ・西浦線を減便して市街地を充実	どんな時間帯に？ ・病院は 8：00 ・スーパーは午後。 ・プールは 9：00～正午、15：00～
地域公共交通の将来像	○方向転換を。 ○毎日だけでなくも生活の為にバスよりタクシー。 ○ニーズに合ったバス運行。（路線、ダイヤ） ○一方向の循環ではいけない。		

形原

現 状 路 線 の 課 題	○ バスに対する意見 ・ 形原の空白地帯は現路線の延長で対応すべき。 ・ 買い物の荷物があるとバスが使えない。80歳代の台車の人はバスを使えない。 ・ 本数が少ない。バスは時間が遅れる。 ・ バスを小型にして数を増やす。結果として今の停留所にこだわらず自宅の近くまでT E Lに従い来てもらう。 ・ 健康長寿の手段、コミュニケーションの場としてバスを考えたい。 ・ 将来ずっと運行される保証がない。 ・ 電車とバスのダイヤ等のネットワークが少しも配慮されていない。 ・ 形原温泉はバス路線の廃止で困っている。 ○ 鉄道に関する意見 ・ 一色高校は名鉄を使う。 ○ タクシー補助に関する意見 ・ タクシーチケット7割→5割に。 ○ その他 ・ 市の補助金支出は現在の状況ではやむをえないと思われる。問題は老人と交通空白地の居住者への対応を重点的に考えることだ。 ・ 80歳くらいまでは車。 ・ 1km、300mという問題でなく高齢者には100mも大変である。 ・ 団体で利用できるマイクロバス。(市で貸し出す) ・ 公民館来館者の足の確保。(バス停が必要) ・ まちづくりの考え方にトランジットモールの発想が必要。		
課 題 解 決 に 向 け た 財 源 確 保	・ 税負担少し増えても仕方がない。 ・ 税金はこれ以上拡大すべきではない。(利用者以外の税負担は不公平) ・ 地域ごと地域から協力金を集めて運行。		
改 善 案	誰のために？ ・ 高齢者、独居 ・ 子供 ・ 交通空白地	どんな目的地に？ ・ 病院(市民病院、トリイクリニック) ・ 買い物(ベオシア、クラスポ、サンヨネ) ・ 塩津駅	どんな時間帯に？ ・ 午前2回、午後2回
地 域 公 共 交 通 の 将 来 像	○ 路線バス、鉄道は維持しつつ、不便な地域へのケア。 ○ 地域のふれあいの場としての交通手段。小型で細い道路にも入れて主要施設の巡回。 ○ 企業に協力してもらう。(スーパー、診療所)		

西浦

現状路線 の課題	○バスに対する意見 ・タクシーのほうが使いやすい。 ・歩ける範囲までバスを作って。 ・三ヶ根駅路線が無くなったのは痛い。 ・稲生の人にはバスは使わない。電車はバスより使いやすい。 ・客の数からいえばマイクロバスレベルでも十分。 ・市民病院は一次医療という意識。市民病院に行く人は乗りっぱなしの方が楽。 ○鉄道に関する意見 ・名鉄電車存続。（高校進学に影響あり） ・塩津駅のＪＲと名鉄の接続が悪い。 ・名鉄バス幸田行きがなくなった。 ○タクシー補助に関する意見 ・タクシー 7 割 → 5 割 ・乗合進める工夫 ○その他 ・バス利用者は小学校より南側の人々。 ・地区ごとに小さな商店は 1 店が残っている。ちょっとした買い物は可能。 ・家族親戚には頼めない。 ・85歳80歳くらいまで車に乗りたい。		
課題解決 に向けた 財源確保	・これ以上無理では？ やりくりするしかないのでは。無駄な部分を減らせ ・現状でも工夫の余地がある。 ・名鉄をタダに（全員で負担に）		
改善案	誰のために？	どんな目的地に？	どんな時間帯に？
	・高齢者 ・子供、高校生（子供鉄道中心、鉄道維持）	・市民病院 ・地域診療所（形原、鹿島） ・高校	・病院は 8:30 着、帰りは 14～14 時頃 ・名鉄電車終電以降のバスがあるとよい ・朝の通学の時間帯
地域公共交通の将来像	○高齢者が安心して気軽に病院へ行けるように。 ○子供が安心して帰ってこられる町に。 ○鉄道もバスも維持すべき。市民病院への直通バス。		

(3) 結果のまとめ

○バスに対する意見

- ・ 大型サイズのバスの中に利用者がほとんどいないことに対する不満が強く、中～小型サイズの小回りが効く車両で主要施設と駅を巡回してほしいとの意見がみられた。
- ・ ルートについては、通勤、ラグーナ蒲郡等には使いやすい一方で、西浦を除いて昼間の買い物・通院には利用しづらいとの意見が多い。蒲郡駅周辺の市街地であっても、現実的には利用しづらいルートになっている。特に三谷・大塚・蒲郡等の地域では、路線短縮・減便が続いた結果、更なる利用離れとなってしまう。
- ・ 形原では、バスを単なる移動手段としてだけでなく、「健康長寿の手段」「コミュニケーションの場」に使いたいという意見がみられた。
- ・ 観光地という土地柄と停留所まで歩くのが大変ということで、バスよりもタクシーの方が良いという意見も散見される。
- ・ 利用の中心は高齢者という意見が多く、自分も将来的には利用したいと言う一方で、80歳以上にならないと車を手放さないという意見が聞かれた。

○鉄道に対する意見

(JR)

- ・ 国鉄時代に比べて利便性が高まっており、蒲郡・三谷・大塚といったJR沿線地区では、駅を中心とした交通ネットワーク構築に対する意見が強い。(直通型から、駅を中心とした巡回型へ)

(名鉄)

- ・ 高校生通学や通勤に資する輸送量を持っており、形原や西浦では名鉄は不可欠という意見が聞かれ、やはり駅を中心とした交通ネットワークが望まれる一方で、三谷や大塚では赤字補てんし続けることに対する懸念が見受けられた。

○タクシー補助に対する意見

- ・ 7割負担が高いという意見がみられる。
- ・ タクシーが、世間体上利用しづらいという意見があった。

○税投入に対する考え方

- ・ 税投入の増大は望まれていない。
- ・ 収入増のアイデアとして、地域の企業や診療所に対して協賛金を募って、停留所設置・名称変更をしてもらうとよいのでは、という意見がみられた。